

## 相手の立場になつて

小五

「今日、お友達に、かたのいたい所をグッとおされていたかつたんだけ。今までいやだと何回も言つたのに、今日もされたんだよ。」

するとお母さんは、

「あなただけがされているの？」

と言つた。それでぼくはこう言つた。  
「それは、きらいな子にはするし、  
そうでない子には、一回もしない。

い。

答えてぼくは、はつとした。そのお友達がやつたことをぼくもやつてい

るのではないいかと思つたのだ。どういうことかというと、ぼくは、ぼう力をふるつたことはないけれど、人に對して態度を変えてしまうことがあるということだ。ぼくが何でぼくだけ、何でわたしだけと、人によつたら、自分が筆箱をわすれていたら、自分から、「だいじょうぶ。貸してあげるよ。」と言ふふりをしてしまう。

だれにでも好ききらいはあるのだから、仕方がないと思つていたから、自分のしていることについて何とも思つていなかつた。

ぼくは、学校でいやなことがあります、お母さんに話をした。

て態度を変えていたことで、いやな  
思いをしている人がいるのかもしれ  
ない。そう考へると、自分がしてい  
たことは、悲しむ人が出る行動だと  
気付くことができた。

自分がいやなことをされたことで、  
相手の立場になつて考へることがで  
きたけれど、これからは、どんなと  
きでも相手の立場になつて考へて行  
動したいと思つた。クラスにも勉強  
が得意な子や苦手な子、運動が好き  
な子やきらいな子、せが高い子や低  
い子、性格が明るい子やおとなしい  
子などがいる。学校以外でも、赤  
ちゃんやお年寄り、しそう害のある  
人など、いろいろな人がいる。これ  
からは、どんな人に対しても相手  
立場になつて考へて行動したい。